



教員が研究の楽しさを語る

第182回(1/23)加藤 徹也先生推薦

ブックガイド



※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

実験医学序説

著者：クロード・ベルナール著；三浦岱栄訳

出版：岩波書店, 1970.1 (岩波文庫)

コメント：題名に医学とあるが、観察・実験を行う科学全般の学習者・研究者のとるべき態度について深い考察が書かれた古典。自然現象から何を見出すのか、背景となる理解をどう進めるのか、それらのアプローチのしかたについて、学生さんにはしっかり向き合う態度を早いうちに育ててもらいたい。



Book2

熱学思想の史的展開：熱とエントロピー 1～3

著者：山本義隆著

出版：筑摩書房, 2008.12-2009.2 (ちくま学芸文庫)

コメント：教育の道を志してふと自分が学んできたことが腑に落ちているかと自問すると、いくつものほころびがあるのは当然。その対処のひとつは、歴史的に科学者たちが真理の表現に到達する道をどう切り拓いてきたかを見ることのはず。物理系科学では原子論・量子論が最難関だが、その前段階として熱・エネルギー・エントロピーを確立する歴史はより広い読者に推奨できる。自然現象への冷静な分析に対してその重要度を熱く語る記述に、科学教育のあるべきひとつの姿を考えさせられた。

